



2012年3月期
第3四半期 決算説明資料

2012年 2月 6日
富士ソフト株式会社



2012年3月期 第3四半期 連結業績



連結業績ハイライト

売上高は、主要子会社の減収を主因に、前年同期比99.1%

◇単体においては、上期に引き続き業務系の受注回復を主因に前年同期比104.1%と2,096百万円の増収となりましたが、ヴィクサスにおいて上期における前年度の大型案件の反動減と10-12月期においても主要顧客の投資抑制が続き減収となったこと、およびマーキュリースタッフینگを持分法適用関連会社にしたことにより1,041百万円の売上計上のマイナス要因となり、連結売上高は前年同期比99.1%の96,808百万円となりました。

営業利益は、単体の営業利益増加を主因に、前年同期比146.6%

◇上期に引き続き、単体の売上高増加および販管費抑制による増益により、連結の営業利益は前年同期比146.6%の2,751百万円となりました。

◇四半期純利益は、税金等計上により440百万円となりました。

(単位：百万円)

	2011年3月期 第3四半期 累計実績	2012年3月期 第3四半期 累計実績	前同差	前同比
売上高	97,722	96,808	△ 914	99.1%
営業利益	1,875	2,751	+ 875	146.6%
営業利益率	1.9%	2.8%	+ 0.9%	
経常利益	1,865	2,239	+ 374	120.1%
経常利益率	1.9%	2.3%	+ 0.4%	
四半期純利益	1,237	440	△ 797	35.6%
四半期純利益率	1.3%	0.5%	-0.8%	



● 主なグループ会社売上高

(単位：百万円)

	2011年3月期 第3四半期 累計実績	2012年3月期 第3四半期 累計実績	前同差	前同比
富士ソフト（東証一部）	50,814	52,911	+ 2,096	104.1%
サイバネットシステム（東証一部）	9,234	9,773	+ 538	105.8%
ヴィンキュラム ジャパン(JASDAQ)	6,735	6,590	△ 144	97.8%
サイバーコム（JASDAQ）	4,460	4,710	+ 250	105.6%
ヴィクサス（非上場）	15,458	13,227	△ 2,230	85.6%

主なグループ会社売上高のポイント

(単体業績はP.10をご参照ください)

●サイバネットシステム

C A Eの主力ソフトウェア分野（機械系）の保守契約更新が上期（上期前同差+454百万円）から引き続き堅調に推移し、前年同期比105.8%の増収となりました。

●ヴィンキュラム ジャパン

大手総合小売業グループ向け大型アウトソーシング案件を前倒しで獲得したこと、複数のソリューション案件を受注するなど順調に推移したものの、主要顧客の経営統合による運用業務減少分を補うまでに至らず、前年同期比97.8%の減収となりました。

●サイバーコム

通信ソフトウェア開発案件が縮小したものの、上期伸張した複合機やプリンター、車載等の制御系ソフトウェア開発案件、ネットワークやサーバの構築・保守・運用サービス等が堅調に推移し、前年同期比105.6%の増収となりました。

●ヴィクサス

上期までの前年度大型案件の反動減の影響と、10-12月期においても主要顧客の投資抑制が続き、前年同期比85.6%の減収となりました。



連結セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2011年3月期 第3四半期		2012年3月期 第3四半期		前同差	前同比
	累計実績	構成比	累計実績	構成比		
売上高 合計	97,722	100.0%	96,808	100.0%	△ 914	99.1%
S I 事業	90,266	92.4%	90,650	93.6%	+ 383	100.4%
組込系ソフトウェア開発	28,369	29.0%	26,322	27.2%	△ 2,047	92.8%
業務系ソフトウェア開発	33,829	34.6%	36,030	37.2%	+ 2,200	106.5%
アウトソーシング事業	11,682	12.0%	10,571	10.9%	△ 1,111	90.5%
その他S I 事業	16,384	16.8%	17,725	18.3%	+ 1,341	108.2%
ファシリティ事業	1,607	1.6%	1,472	1.5%	△ 135	91.6%
その他事業	5,848	6.0%	4,685	4.8%	△ 1,162	80.1%

セグメント別売上高のポイント

< S I 事業 >

●組込系ソフトウェア開発

自動車関連・FAを中心に機械制御系は堅調だったものの、フィーチャーフォン関連が落ち込み、組込系全体では減収となりました。

●業務系ソフトウェア開発

ヴィクサスの前年度の大型案件の反動減と主要顧客の投資抑制があったものの、上期から引き続き、単体でインターネットビジネス関連と社会インフラ系が好調に推移し、業務系全体では増収となりました。

●アウトソーシング事業

ヴィクサスの主要顧客のシステム保守・運用減少に伴い、減収となりました。

●その他S I 事業

サイバネットシステムの主力CAE製品の保守契約更新と単体でFSMobile関連プロダクトなどが堅調に推移したため、増収となりました。

< その他事業 >

マーキュリースタッフینگ（前年売上高1,041百万円）の連結除外（2011年3月期下期より持分法適用関連会社）により、減収となりました。



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2011年3月期 第3四半期 累計実績	2012年3月期 第3四半期 累計実績	前同差	前同比
売上高	97,722	96,808	△ 914	99.1%
売上原価	75,234	74,400	△ 834	98.9%
売上原価率	77.0%	76.9%	-0.1%	
売上総利益	22,487	22,408	△ 79	99.6%
売上総利益率	23.0%	23.1%	+0.1%	
販売費及び一般管理費	20,611	19,657	△ 954	95.4%
販管費率	21.1%	20.3%	-0.8%	
営業利益	1,875	2,751	+875 ①	146.6%
営業利益率	1.9%	2.8%	+0.9%	
営業外収益	※1 1,505	405	△ 1,099 ②	26.9%
営業外費用	1,615	※2 625	△ 989 ②	38.7%
持分法による投資損益	99	△ 291	△ 390 ③	-
経常利益	1,865	2,239	+374	120.1%
経常利益率	1.9%	2.3%	+0.4%	
特別利益	196	41	△ 154 ④	21.0%
特別損失	99	272	+173 ⑤	275.3%
税金等調整前四半期純利益	1,962	2,007	+45	102.3%
法人税等合計	484	1,428	+943 ⑥	294.7%
少数株主利益	239	138	△ 101	57.8%
四半期純利益	1,237	440	△ 797 ⑥	35.6%
四半期純利益率	1.3%	0.5%	-0.8%	

※1 持分法による投資利益（99百万円）を除いた数値です。

※2 持分法による投資損失（291百万円）を除いた数値です。

損益計算書のポイント

- ① 営業利益（前同差+875百万円）
単体の営業利益の大幅増益を主因に増益
- ② 営業外収益（前同差△1,099百万円）
営業外費用（前同差△989百万円）
前年に計上したシステムサービス解約収入（ヴィクス：897百万円）と解約損（ヴィクス：867百万円）の反動減
- ③ 持分法による投資損益（前同差△390百万円）
持分法適用関連会社（エース証券：△245百万円）の損失を主因に悪化
- ④ 特別利益（前同差△154百万円）
前年に計上した投資有価証券売却益（東証コンピュータシステム：166百万円）の反動減
- ⑤ 特別損失（前同差+173百万円）
投資有価証券評価損（ヴィクス：89百万円）
事業所閉鎖に伴う損失（ヴィクス：142百万円）
本社移転費用およびデータセンターの一部解約に伴う費用（東証コンピュータシステム：40百万円）
- ⑥ 法人税等合計（前同差+943百万円）
四半期純利益（前同差△797百万円）
単体の増益に伴う税金計上額の増加（661百万円）と法人税率変更に伴う増加（287百万円）



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2011年3月期 期末	2012年3月期 第3四半期 期末	前期末差
流動資産	57,534	45,319	△ 12,215
現金及び預金	22,045	14,576	△ 7,468 ①
受取手形及び売掛金	28,385	22,878	△ 5,507 ②
仕掛品	1,453	2,849	+1,395
その他	5,650	5,015	△ 635
固定資産	111,881	107,657	△ 4,224
有形固定資産	76,343	74,774	△ 1,568 ③
無形固定資産	11,700	10,273	△ 1,426 ③
投資その他の資産	23,837	22,609	△ 1,228 ④
資産合計	169,416	152,977	△ 16,439
流動負債	55,099	41,762	△ 13,337
買掛金	7,565	6,203	△ 1,361 ②
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	33,916	23,676	△ 10,239 ①
未払費用	6,087	5,234	△ 852
その他	7,531	6,646	△ 884
固定負債	30,038	28,256	△ 1,781
長期借入金	21,641	20,184	△ 1,457 ①
その他	8,396	8,072	△ 324
負債合計	85,137	70,018	△ 15,118
純資産合計	84,278	82,958	△ 1,320
負債純資産合計	169,416	152,977	△ 16,439

貸借対照表のポイント

- ①現金及び預金 (前期末差△7,468百万円)
短期借入金 (前期末差△10,239百万円)
長期借入金 (前期末差△1,457百万円)
前期末に不測の事態に備えて積み上げた
手元資金の返済と借入金の圧縮を進め、
減少
- ②受取手形及び売掛金 (前期末差△5,507百万円)
買掛金 (前期末差△1,361百万円)
季節要因に伴う減少
- ③有形固定資産 (前期末差△1,568百万円)
無形固定資産 (前期末差△1,426百万円)
償却による減少
- ④投資その他の資産 (前期末差△1,228百万円)
上期に計上した投資有価証券の売却
(サイバネットシステム)に伴う減少



● 連結キャッシュ・フロー計算書

	2011年3月期 第3四半期 累計実績	2012年3月期 第3四半期 累計実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,395	8,161	+2,765
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,149	△ 2,105	+4,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 922	△ 13,464	△ 12,542
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,741	△ 7,506	△ 5,764
現金及び現金同等物の期首残高	16,687	22,044	+5,357
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	85	-	△ 85
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,030	14,538	△ 492

キャッシュ・フローのポイント

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業利益の改善および売上増加に伴う売上債権の回収増加により、前年同期と比べて2,765百万円増加しました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

サイバネットシステムにおける投資有価証券の売却に加え、前年に単体において投資有価証券の取得と自社プロダクトの開発等の支出が大きかったこと、サイバネットシステムが子会社を新規連結したこと、ヴィクサスで投資したデータセンター等の支出の反動により、前年同期差4,044百万円となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

前期末に不測の事態に備えて借入れた手元資金の返済と借入金の約定返済、および自己株式を取得したことにより前年同期と比べて12,542百万円減少しました。



● 連結SI事業の受注高・受注残高

	受注高				受注残高			
	2011年3月期 第3四半期 累計実績	2012年3月期 第3四半期 累計実績	前同差	前同比	2011年3月期 第3四半期末 実績	2012年3月期 第3四半期末 実績	前同差	前同比
S I 事業 合計	85,130	89,550	+ 4,419	105.2%	29,962	30,077	+ 115	100.4%
組込系ソフトウェア開発	28,445	26,412	△ 2,033	92.9%	7,437	7,663	+ 225	103.0%
業務系ソフトウェア開発	31,594	35,887	+ 4,293	113.6%	10,336	10,818	+ 481	104.7%
アウトソーシング事業	9,701	10,432	+ 730	107.5%	6,655	6,576	△ 78	98.8%
その他SI事業	15,388	16,817	+ 1,428	109.3%	5,533	5,020	△ 513	90.7%

受注高・受注残高のポイント

●受注高のポイント

組込系は上期に引き続き、フィーチャーフォン関連の受注が大幅に減少したものの、機械制御系（自動車関連・FA）が堅調に推移し、前年同期比92.9%となりました。一方、業務系においては社会インフラ系が好調、インターネットビジネス関連が堅調に推移したことを主因に前年同期比113.6%となりました。S I 事業全体では前年同期比105.2%となりました。

●受注残高のポイント

組込系は通信制御系が減少したものの、四半期末に受注が集中する機械制御系（自動車関連）が伸張したため、前年同期比103.0%となりました。業務系では単体で損保分野における新規案件を受注したことを主因に、前年同期比104.7%となりました。また、その他SI事業は大型プロダクト案件の売上計上により、大きく減少しましたが、組込系、業務系がともに増加したため、SI事業全体では前年同期比100.4%となりました。

※第1四半期連結会計期間より、契約上の受注残高を集計する方法から工事進行基準売上高を考慮した受注残高の集計方法に変更しております。



2012年3月期 第3四半期 単体業績



2012年3月期 第3四半期単体業績

(単位：百万円)

	2011年3月期 第3四半期 累計実績	2012年3月期 第3四半期 累計実績	前同差	前同比
売上高	50,814	52,911	+2,096	104.1% ①
売上原価	38,932	40,233	+1,301	103.3%
売上原価率	76.6%	76.0%		
売上総利益	11,882	12,677	+795	106.7%
売上総利益率	23.4%	24.0%		
販売費及び一般管理費	11,137	10,926	△210	98.1%
販管費率	21.9%	20.7%		
営業利益	744	1,751	+1,006	235.2% ②
営業利益率	1.5%	3.3%		
経常利益	1,182	1,935	+753	163.7% ③
経常利益率	2.3%	3.7%		
税金等調整前四半期純利益	1,081	1,935	+853	178.9%
法人税等合計	△22	643	+665④	-
四半期純利益	1,103	1,292	+188	117.1%
四半期純利益率	2.2%	2.4%		

単体業績のポイント

①売上高 (前同差+2,096百万円)

組込系は自動車関連を中心に機械制御系が堅調に推移したものの、フィーチャーフォン関連の落ち込みを補えず減収となりましたが、業務系で社会インフラ系、インターネットビジネス関連をはじめ全分野で前年を上回ったことにより、前年同期比で104.1%の増収となりました。

②営業利益 (前同差+1,006百万円)

売上の増加および販管費の抑制を主因に大幅増益

③経常利益 (前同差+753百万円)

営業利益の増益を主因に増益

④法人税等合計 (前同差+665百万円)

大幅な増益による法人税計上額の増加



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。